
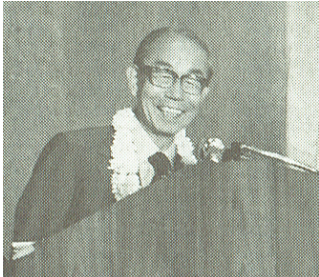


**研究者総覧：井原伸浩 (IHARA, Nobuhiro)**

氏名	井原伸浩 (IHARA, Nobuhiro)	
職名	准教授	
所属講座	メディアプロフェッショナルコース	
学位（専攻分野）	Ph.D. (Social and Political Sciences), University of Melbourne	
メールアドレス	ihara@lang.nagoya-u.ac.jp	
研究分野	国際政治史 アジア研究 メディア研究	
現在の研究テーマ	国家間の政治的シグナル、日本のパブリック・ディプロマシー	
所属学会	国際政治学会 日本マス・コミュニケーション学会	
主要著書・論文	井原伸浩「ASEAN 設立過程再考 — 原加盟国の対インドネシア不信に注目して —」『国際政治』164, 115-128, 2011. 井原伸浩「設立当初の ASEAN は機能したか：インドネシアの域内影響力拡大を抑制する制度構造に注目して、1966-1968」『神戸法學雑誌』62(3/4), 99-128, 2013. 井原伸浩「サバ紛争と ASEAN:紛争管理手法の採用過程、1968-69」『神戸法學雑誌』63(1)、141-169, 2013. Nobuhiro Ihara, “Singapore’s ASEAN Membership: A Focus on the Institutional Structure of Regional Cooperation, 1966-68,” <i>Kobe Law Review</i> , forthcoming.	
自己紹介文	相互に不信を抱える国家間の協力を実現・維持するために、いかなるシグナルが当該国家の政府間で送られるのか、というテーマをこれまで研究してきました。具体的な事例として、1960年代から70年代にかけての東南アジア諸国連合 (ASEAN: the Association of Southeast Asian Nations) 史を扱っています。現在は、1977年に福田赳夫首相によって発表された、「福田ドクトリン」に至る過程を事例に、70年代に日本が ASEAN との対外関係をいかに構築し	 福田ドクトリンを発表する福田赳夫首相（写真は福田赳夫『回顧九十年』岩波書店、1995年、279頁から引用）

	<p>ていったかを検討しています。福田ドクトリンは、発表されて35年以上がたちますが、同ドクトリンで用いられた「心と心の通い合う」信頼関係という語は、今日においても、首相を含めた日本の主要閣僚によって繰り返し語られるほど、日本外交の基礎をなしています。分析に当たっては、私のこれまでの研究で用いた国家間シグナルの議論に加え、ASEAN 諸国民の対日イメージを向上させる文化外交も研究の射程に加えています。</p> <p>大学院の講義では、アジアにおけるパブリック・ディプロマシーに加え、権力、政治体制、プロパガンダおよびナショナリズムといったテーマを軸に、メディアの役割や在り様およびその変化を、政治学的、歴史学的に議論します。</p>
<p>受験生へのメッセージ</p>	<p>高い目的意識を持った学生の入学を希望します。自分はどういう社会に貢献したいのか、そのためにどのような職に就きたいか、それにはどのような能力が必要なのか、そうした能力の習得や向上に大学院のプログラムは役に立つのか…これらを熟慮したうえで、大学院への進学を検討してください。</p> <p>こうした目的意識がなければ、勉学や研究に熱意を持つことは難しいですし、その結果、大学院生活で得られるものも大きく減退してしまいます。修士論文の執筆を例にとると、強い目的意識や熱意をもって取り組む学生は、研究対象についての専門性を向上させる以上のものを、そこから得ることができます。論文の執筆過程では、研究対象の現状を把握して研究課題を発見・設定する能力や、研究を実施するうえでどのような作業をいかに進めるべきかを明確にする計画力、研究を実施する行動力、情報収集力、さらには研究成果の発信力を向上させる機会があるからです。また、学術的な引き出しを増やし、質の高い論文の執筆につながりやすくするために、自身の専門だけでなく、幅広く学際的に学ぶことも求められます。いうまでもなく、これらの能力や見識の広さは、皆さんが就職した後、社会人として必ず要求されるでしょう。</p> <p>学べば学ぶほどわからないことばかりですが、熱意をもって研究し、多くの文献や資料に触れていけば、楽しい発見に巡り合う瞬間はきっとあります。ぜひ、学びに熱中することで、こうした研究の醍醐味に触れていただければ幸いです。私も、皆さんとの交流の中に、たくさんの発見があることを楽しみにしています。</p>